



四天王剽盜異錄

後編

13
974
9



八通13
974
9

源家 四天王剽盜異録卷之九

東都 飯台 曲亭主人著

第十七綴

附 碓氷巔小季武荒太郎と知事

下部季武の足柄山よりゆくりあり。頼光朝臣の恩宥を思ふれば。一時小秋肩とゆひたり。急ぎと持渡國より立上り。父季國がしるこびら。親戚より訪ひ来り。恙あらん再會と祝ひたり。かくて季武の。日多田の城を登りて。まづ仲光小就の御書をとりて。満中朝臣や。季武と名をひ。此度頼光總州下向の道中。山より猛獸と刺しめ。城忠なり。とて変神妙なり。しりて頼の。

三傳山本助助

明講

源家異録 卷之九

優免ししし條向後頼光小供忠信懈しとありて宜へき事武
 拜謝し退れ出り君恩力よあましくとて覚ゆる。かきかたは起程で
 土總小走美とぐゆり小折し。又季國老軀弱ふあしう病と僅十日
 じりりあしてはまはりり行年七十九歳なり。季武用極の痛小堪ふ
 藤の夜小面瘦く送葬追福の佛支りらば竭しつれと休す。是
 併父子孝慈符令し存生の對面を足りぬ。せめく心と願ふ
 一しつものかりぬ下一の故よし。起程の支とすめ。細りふ消息
 して亡く中陰訖のち。季向とべれ昔といひつりつり。待
 かり小日敷。あり。冥あつ年終りつれゆも中陰も中果ぬ
 うぶ總がふ赴くべし。うてび行装をそひ己ふ立出んて忽ち
 思ふや。しり。折ね。これ飛瓜同じ。あも彼女子の故とり。こい

死刑を宥まき。歸來の目もあつもの故。今訪てて遣るん義不
 あつどところぼつ。即日玉願家小尋ゆ。た部季武といふもれ
 密小物うらぎ夏ありて暮まりつらふ。平を部失ぬ。季武と
 忙し出ひえや。客次を請ひつ。細りて望小袖をぬりり。
 季武この光景を怪る。まづ詳し。身之物をりして。堀松夏瓜
 向。夫婦はなれつ。泣く。昔のこ。且く。平を部がいつく。
 季武の恩免と得。き。歸來し。女児。の世ふ。あ。う。つ。を
 戻り。れ。今。七。年。し。由。と。甚。し。家。と。出。ま。び。
 牙。投。り。ん。四。五。日。の。ち。彼。の。夜。と。住。吉。の。岸。り。得。れ。い。世。絶。
 も。堀。松。の。瀬。あ。ど。と思。い。え。出。る。の。日。を。止。日。と。定。め。の。れ
 五月七回の追薦と。なり。と。語。ら。も。あ。へ。ど。涙。も。あ。ら。く。袂。と

顔小押骨... 季武... 秋風... 恨... 思... 涙... 毎月の亡日... 法... 善智識の圓向... 面... 伍牌...

こころ... 遂小平... 雨... 向暮... 季武頭... 圓向の僧... 煙細... 讀誦... 彼僧... 追ひ... 假小...

于及山のり
季武姫
松姫
圖



川谷異録

卷之二

九

川谷異録

卷之二

九

かんうらゝるる子に親。又まうし思ふぞ。親子二世の縁しうのいど
 白地あり見えも。煙の中此付を。余はるるるるる。夫婦の
 屏風の後ふくれぬ。その時奴婢も。怪を怖る。後に出ひ人も
 りれど。婿に昔ふりぬ。家の奥内へ入りまらる。父母の
 何処おかりとんと。間毎くを尋り。家廟のほろふまれば。僧ち
 魂身ふらる。法衣お恥く。逃もや。命の蟬声ふりま。齒の
 根も。つらぐ續經せり。婿にわくも。何んま。父母の
 ろろも。あ。思ひも。季武が。席とふ。あ。こ。い
 めと。ま。み。季武つ。形容を。見。み。
 ま。陰鬼の。属。あ。故。思ひ。量。は。既。七。年
 以前。海底。沈。と。公。今。思。く。り。ま。怪。思。ふ

ところろ。早く。由。を。り。あ。婿。も。や。身。の。変。小。お。つ。か。と。
 保捕。小。詔。昔。ら。公。時。小。救。れ。今。不。至。ま。詳。小。物。ご。ら。つ。
 細。書。筒。を。と。り。出。し。季。武。は。遮。り。ん。季。武。封。皮。剪。り。ま。こ。れ
 を。讀。み。季。國。物。故。之。事。悼。思。食。と。ころ。身。小。侍。女。婿。松。往。小。保。捕。ら
 新。計。は。隔。り。上。徳。園。小。漂。流。し。府。不。至。と。七。年。近。曾。再。び。新。賊。の。為。ふ
 句。引。せ。り。日。公。時。不。意。れ。を。救。ひ。得。ら。依。ら。る。若。節。感。十
 思。食。の。あ。ま。り。即。日。故。郷。小。ゆ。め。足。下。と。配。偶。あ。り。ま。こ。の。條。彼
 父母。小。告。り。速。小。誓。縁。を。締。へ。者。は。仰。承。の。狀。如。件。天。祿。二。年。十。月。日
 小。部。季。武。殿。渡。辺。細。酒。田。公。時。と。讀。も。果。さ。る。平。右。郎。夫。婦。ち
 屏。風。の。陰。り。走。り。出。や。女。見。こ。り。世。小。あ。り。ま。こ。の。夏。や。こ
 あ。ら。現。も。只。れ。と。婿。し。思。ふ。の。限。り。こ。の。と。乃。あ。る。ま。こ

いづつもなほ 袖を引大お染び地お染ぶ。この声とりん聞。うらの物れて
 遊らり。奴婢おもろふつゝひ来。まよふらこひ成述。程小。田向の僧ら
 的なれ由。人射るるも。も。言祝。経讀。して歸。り。る。
 姫。又。の。鏡。と。保。補。が。保。書。成。り。牛。く。く。季。武。の。を。思。ひ。い。く。ん。深。
 れど。公。儀。く。く。遊。の。く。く。の。苦。勞。分。け。奉。り。不。孝。の。罪。許。り。ませ。と
 の。又。母。の。も。季。武。に。言。威。激。一。城。の。鏡。の。樂。昌。公。主。が。分。鏡。の。契。
 小。勝。り。く。鏡。と。今。共。ふ。ら。め。を。偏。ふ。が。君。の。賜。の。恩。澤。忘。る。べ。く。と。こ
 く。ふ。ぞ。平。ち。部。夫。婦。も。わ。く。頼。光。朝。臣。の。寵。恩。を。感。謝。一。幸。ひ。今。日
 今。部。勝。見。く。く。俄。頃。小。婿。姻。の。席。を。設。む。ば。季。武。姫。に。その。夜。東。床。の
 契。成。を。締。む。ら。る。平。ち。部。又。女。見。成。送。り。来。ら。る。之。の。部。も。も。篤。く。養。應。
 して。種。の。子。物。成。増。り。園。宅。に。ま。ら。ら。び。勇。之。境。小。至。す。と。並。む。ん

流。く。樂。遊。び。ぬ。季。武。も。只。一。日。も。中。君。恩。と。謝。一。奉。る。く。思。ひ。成。り。姫。に
 を。その。又。母。小。言。お。ん。次。の。日。彼。部。小。二。人。を。お。く。徳。列。小。啓。成。り。東。海。を
 へ。く。住。ま。れ。め。が。ら。う。か。く。と。と。此。度。の。岐。岨。路。を。登。ゆ。く。は。と。ふ。
 その。年。も。言。く。旅。路。小。妻。を。む。く。日。数。経。く。信。濃。と。土。毛。の。封。疆。を。る
 碓。氷。巔。を。越。る。日。薪。居。多。積。る。牛。北。橋。を。け。ら。と。く。前。足。成。橋。の。下
 小。踏。ち。く。進。退。見。く。見。え。され。牧。童。も。こ。い。ふ。せ。ん。と。慌。忙。の。せ。ん。と。へ
 る。く。これ。が。乃。小。行人。路。を。去。あ。い。く。徒。小。膽。居。る。折。り。年。紀。二十。有。餘
 あり。身。丈。の。尋。常。の。人。より。二。丈。も。高。く。人。と。お。げ。き。樵。夫。多。く。柴。を。背。負
 く。巔。の。こ。り。来。り。が。好。く。と。く。福。乃。中。程。ま。ま。と。歩。く。と。ら。柴。を。も
 お。り。牛。の。胸。臆。の。へ。牛。成。り。入。き。一。き。中。の。ひ。つ。起。せ。牛。の。心。を
 足。成。後。お。る。橋。成。り。く。これ。が。見。ら。る。ま。の。ま。言。成。卷。の。樵。夫。力

碓氷圮橋
荒太郎頭
勇力圖



いづらありあきんと散動し。只顧れと稱し。李武二人の計あり。橋のこゝろよりこの光景見え。いづくも嘆賞し。傷る里人が彼推夫が名を問ひ。彼元信濃の里人なり。矢村の人なり。名を荒を部とす。け地住あり。十年ぐらに前後初小あり。長は長とめ。おの推し。活計をこゝろの言ひ。記し。荒を部既よ李武のいづくも。李武これ路の傷お招き。礼を厚し。言車お小。足下生る。これ推夫おあはれ。今牛込助て橋を渡せ。勇力の勝と。のこる。動静を。武の法。み。頼光朝臣。近江部。李武といふ。足下。青雲の志あり。わが。良主。功業。抑が君の武徳。世の人。普く。荒を部の言ひ。恭れ。足下。錦を被。故郷お歸。う。荒を部の言ひ。恭れ。足下。

今いづら為小伯樂とんと宣ふ。好意謝る。堪。物ぐらて。吹。進。家。遠。具。想。李武おを誘ひ。祖父橋貞雄。快麗の官人。衆あり。信州。子孫民間。う。矢村。住。身。武。事。父母死。討。父の。報。夜。告。父の。教。従。確。氷。あり。時。生。平。謙。請。明。神。と。信。仰。彼。神。社。お。詣。り。言。ひ。詳。小。物。ぐ。ら。李。武。と。稱。下。の。実。孝。義。の。人。起。程。と。薦。荒。を。部。源。家。の。武。名。糧。く。前。象。去。来。も。起。程。と。薦。荒。を。部。源。家。の。武。名。衣。装。李。武。も。上。總。へ。赴。不。題。の。時。信。州。一。日。頼。光。朝。臣。細。公。時。を。召。宣。ふ。時。昔。思。議。の。友。と。上。毛。の。確。氷。と。

川 益 異 録

卷 之 九

七

おぼろさ忍ぶや。終日獵しつゝ。絶く獲たり。伎小歸去。人々を驚かす時。途小
 一個の野猪をさぐり。射てこれに獲たり。志あるふこの野猪は足ありに股あり
 りんぶく。怪し思ふ折し。忽ち衣冠儼然とる老翁あり。れはは獲る処の
 物腹にあり。ももを股に全うも。しりし今これと与へ。その股に使
 ひて宣ひ。野猪の片股を賜へ。頼光は受て。君にこれに人
 小かりし。問ひ我の信州詠物の事。答あり。寤ぬ。その後の吉田
 といふ。まきと問ひ。渡辺綱祝して。昔周の文王獵し。時史編して
 得る。得る。物龍影。あつど。虎罷ふ。當小天子の師。人
 人瓜得る。果。潘溪。太公望を得。昔
 の御愛も。又このふひ。吉祥。浩処。青侍。廊。其
 あり。季武。今到着。告。頼光朝臣。これと聞食。其。

宣。それ。季武。前。起居。急。賀。次。頼光。縁
 の。惠。頼光。朝臣。死。去。を。悼。思。め。の。條。頼光。少。え
 の。時。季武。武。此。度。参。向。の。道。と。碓。氷。巖。一。個。の。勇。士。と。云。く
 不。至。一。五。十。演。説。を。頼。光。朝。臣。の。綱。と。清。目。と。見。合。ひ。こ。こ。ら
 夢。の。告。この。者。小。應。下。と。精。多。持。小。御。ま。び。の。色。を。某。者。誘。ひ
 糸。見。え。一。命。を。季。武。御。前。を。荒。を。新。を。頼。光
 の。人。を。見。め。相。親。堂。威。風。慄。綱。公。時。も。若。者。と。云。く。勇。士
 ら。只。言。賞。季。武。物。粗。の。素。生。も。信。州
 引。夫。村。人。弓。矢。の。家。小。は。武。名。公。蕃。と。前。衆。と。云。れ
 今。光。忠。義。公。權。碓。氷。小。あり。立。身。の。時。傳。れ。

確氷とありて氏とせし。又頼光が名の二字からち得てとべんが確氷荒を郎
貞光と名生じてと命ありて。とありて御益と賜り。貞光禮と頂戴。三酌ふ
乃時福見の引出物うて倭文鞍置る馬一疋金作太刀二口。甲冑。弓矢。至るも
皆具とるうてこれに賜まは。貞光君恩と深謝。遠侍も退れり。実比頼光は
寵恩多と。今も是と羨め抑貞光村海人となり。貞光居外と願ひ親事
孝公(遠)智勇勝れんも誇る人。とされも愠む。天地にこれと監。神明
終これと憐。時運やや三十九歳のふふ。未とて禄と得。こと
有とあり。は夫なり。とれ。清明がトひふ。とら。頼光朝臣は僅五箇月の間
りちつぎ。名臣三人と得。ひくれば。細公時季武貞光の四傑腹心股肱の
臣とら。漢の四相蜀の四英。小異と。君公補佐。と。武功の高と
頼頃の四天ふか。と。世の人これに源家の四天王と稱。と

第十八綴

頼光病牀に妖童と斬め小談
附 画佛尼一喝。保輔と退る事

今茲天祿三年の夏のころ。盗賊蜂起。畿内穰あ。と。公郷金誤
あり。頼光のま。任限満。と。中。召上。と。宝闕を守。下と
中。と。頼光朝臣。初命と得。と。秋七月下旬。上總園と起程
。日夜路。の。八月。中旬。帰洛あり。と。の。月。兵杖と帯。四天
王の。勇士と。将。禁闕と守。三。公。百官。と。都
頼光。叛臣。上洛の。支。と。宮。内。の。群。賊。と。逃。亡。都。都
忽ち。安堵の。思。ひ。を。か。せ。り。頼光朝臣も。院。牀。の。暇。と。ま。り。て。と。あ。く
御。館。ふ。え。と。ひ。一。日。鞍。馬。寺。ふ。端。の。ひ。市。原。野。と。過。り。多。中。ふ。野。を
九月の。季。の。野。邊。の。草。華。と。枯。り。露。吹。と。風。吹。と。覚。り。と

碓氷とありて氏とせし。又頼光が名の一字のみちり得るも、碓氷荒方郎
貞光と名生じ、と命ありて。とありし御益と賜り、貞光禮と頂戴。二酌不
及、時福見の引出物にて、倭鞍置る馬一疋、金作太刀二口、甲冑、弓矢に至るも
皆具せり。これに賜き、貞光君恩と拜謝し、遠侍に退れり。實に頼光の
寵恩多し。今、是を羨め、抑貞光村藩人となり、貞光居外と願ひ、親を奉て
孝を盡し、智勇勝れんも、誇らば、人々も慍む。天地もこれと監し、神明
終これと憐れ、時運や中、二十九歳の夕ふ、むすけの末、とて、禄を得、つこと
有るも、は夫あり。され、晴明がトひ、ふ、と、頼光朝臣に、僅五箇月の間
うちつ、きく、名臣三人と得、ひくれ、細公時、季武、貞光の四傑、腹心股肱の
臣とあり。漢の四相、蜀の四英、不異する。と、君に補佐し、武功の高きと
頼光の四天王、ふか、と、世の人、これに、源家の四天王と

第十八綴

頼光病牀、不妖童と斬り、小談

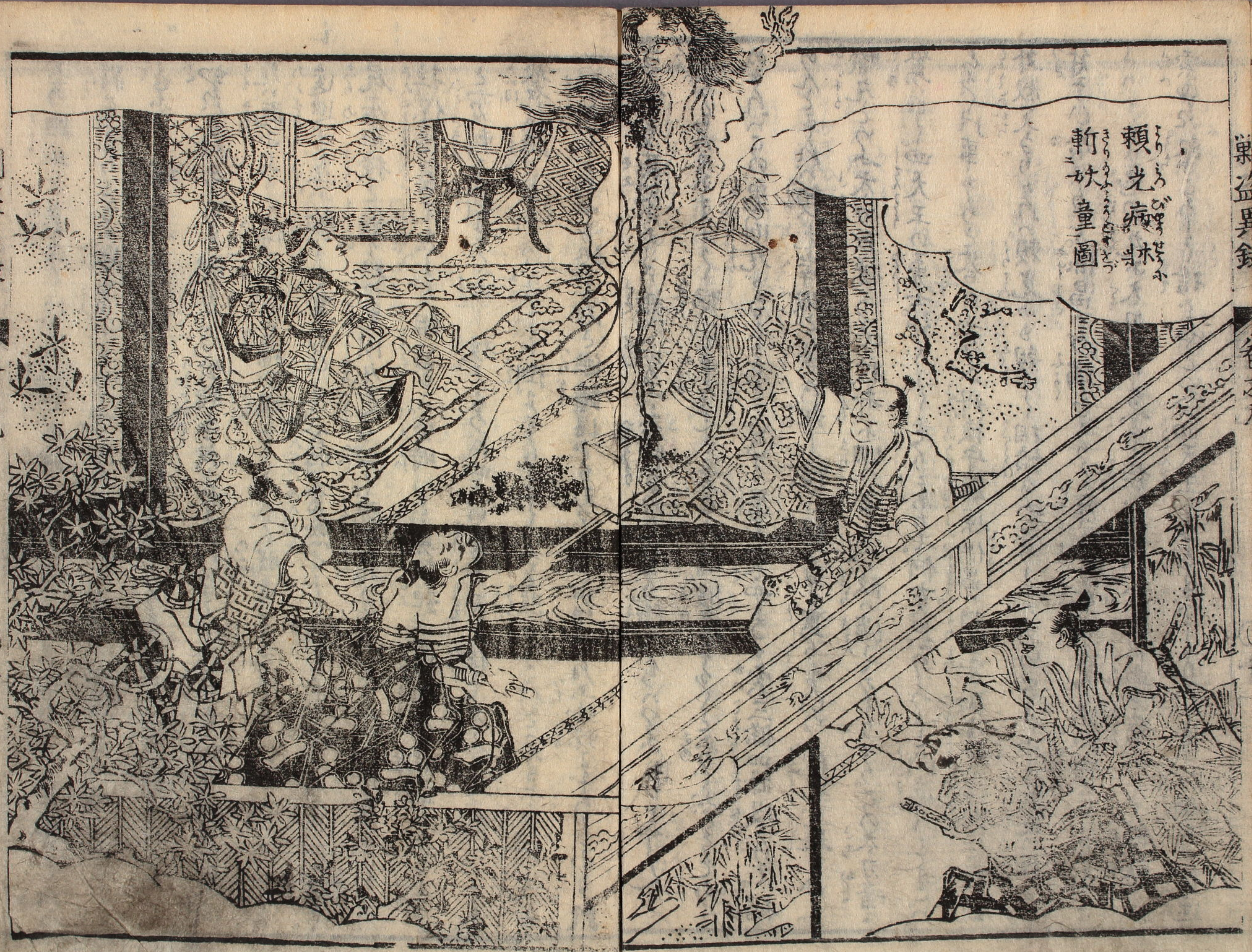
附 画佛尼一喝、伊輔と退る事

今、茲天祿三年の夏のころ、盗賊蜂起し、畿内、稔あつ、され、公郷、金誤
あり。頼光のま、任限満、と、つ、と、中、召上、と、宝、守、護、り、む、と、
中、と、ん、と、を、り、ら、ら、ら、頼光朝臣、初命、と、得、り、ふ、秋、七、月、下、旬、上、總、國、と、起、程
く、日、夜、路、を、つ、た、だ、あ、ひ、一、程、ふ、八、月、中、旬、帰、洛、あり、て、その、月、一、日、兵、杖、と、帶、四、天
王、の、三、勇士、と、持、し、禁、闕、と、守、護、し、ま、ひ、くれ、三、公、百、官、と、あ、れ、り、思、ひ、の、ま、れ
頼光朝臣、上洛の、夏、と、ま、り、て、宮、中、に、入、り、畿、内、の、群、賊、も、つ、つ、と、あ、り、逃、亡、し、都、鄙
忽、ち、安、堵、の、思、ひ、と、か、せ、り、と、頼光朝臣、も、院、牀、の、暇、と、ま、り、て、と、あ、り、
御、館、に、入、り、あ、ひ、一、日、鞍、馬、寺、に、詣、り、ひ、く、市、原、野、と、遇、り、多、中、に、あ、り、
九月の、冬、の、ま、り、野、邊、の、草、葉、も、枯、り、露、吹、く、と、風、も、あ、り、覚、め、ひ、

ころ。俄頃小寒熱。路次の堪るる事不極。中々帰館。多々。
 苦しき苦みかふええさせぬ。四天王とてめ家臣。色はく。昼夜
 懶らざる看病。このは敷聞小達。いれども。典薬頭重雅をり。勅向
 のり。重雅脈と診。つら。夏暑邪傷。秋の。瘧疾
 幾。理の常。脚症。瘧疾。諸瘧。風。一
 方。腹用。陰陽表裏。考。経絡虚实。察。良薬。方劑
 醫衆議評論。熱氣。更。醒。二十餘日。少。休息
 頼光朝臣。寝。孤燈。對。枕。歌。折。燈の影。

三人あり。其処あり。誰。向。否。憚。あり。は。つ。不。せ。り。と。や。ん。と。
 同。目。ま。し。く。極。事。時。彼。者。止。と。止。と。出。と。あ。り。
 め。鬼。同。九。果。と。太。中。索。三。條。四。條。投。け。て。搦
 めん。頼光。岸。破。と。身。起。憎。奴。罵。り。ひ。つ。枕。辺。小。建。ひ。
 際。九。太。刀。抜。打。切。つ。形。消。く。り。り。この。太。刀。音。
 驚。四。天。王。の。勇。士。走。り。あ。り。て。何。夏。の。お。り。つ。同。進。し。
 あり。此。事。わ。ら。と。合。あ。る。丹。後。守。藤。原。保。昌。頼。光。の。御。舍。弟。淡。路。守。頼。親
 外。叔。父。頼。光。の。親。相。結。あ。り。つ。この。つ。ま。も。昼。夜。の。隔。る。
 付。居。り。保。昌。ま。づ。燭。を。照。し。席。上。を。照。し。血。影。し。こ。む。と。
 くら。鬼。同。九。太。刀。つ。け。る。小。疑。ひ。去。来。の。血。を。葉。あ。り。彼。棲。ぬ
 索。ゆ。た。撃。手。捨。る。四。天。王。ま。る。く。し。り。あ。り。小。松。明。を。連。

賴光病狀
斬妖童圖



その躑血と慕ゆくほふ北野の神社の後小大やうる塚あり。其処より血の
 跡をまらするが塚の石をこの啼く声をもとらるる。堀毀つる程こそあま
 るなく塚の石を投除く。忽ちこれを獲て入る。四五尺底不到。株乃
 切れり。あらまきやうる公時手なうり引さん。是鬼同丸時。鬼同
 丸既ふら傷れ苦痛不堪。今ハ脱去する。只引さん。引さんと
 遠巡し互に輸と撃あひ。公時奮然と引さん。遂に肘を引抜く。
 尻居不控と顛り。鬼同丸走り出。既ふれうらんとする。細季武右より
 柱保昌貞光左より組置。公時つと身成起。鬼同丸が胸前を刺し融と
 と一刀刺を刺ま。ゆ一撓とる。瓜四人の勇士刀を抜。左より刺。右より
 般若丸搏とる。音と倒。火を照して。鬼同丸が
 形状。下の中也似。大と洪鐘ほもあ。とか何。土蜘蛛をさる。ふり。れ。

誠やいめ。年晴明が。鬼同丸の蜘蛛の妖。勇士。晴明。笠の神。子
 通。と。威。御。聽。く。の。蜘蛛。不。索。と。附。御。館。不。引。来。り。く。頼。光。朝。臣。を。全
 奉。と。さ。る。り。れ。物。不。ま。り。く。竹。と。く。ら。る。日。三。千。餘。日。悩。め。る。こ。そ。あ。ま。り。ぬ。
 夜。も。う。け。大。路。不。肆。と。命。と。れ。次。の。日。鉄。の。串。不。貫。れ。河。原。不。ま。り。く。置
 退。治。し。る。五。人。の。勇。士。ハ。天。神。の。假。不。人。間。不。降。ま。り。く。民。の。害。を。除。ん。ぬ。よ
 頼。光。朝。臣。の。聲。街。不。充。ぬ。頼。光。朝。臣。の。虐。病。を。の。頼。光。朝。臣。は。こ
 不。是。禱。番。保。捕。源。家。の。武。威。不。憚。り。伊。賀。伊。勢。の。間。不。身。と。潜。め。ん。ぬ。を。さ。る
 居。多。年。月。と。道。と。る。づ。の。心。ま。り。く。あ。ま。り。去。来。都。不。潜

上りて。四天王あま眠み覺をも。年来の懸影も散まらば。國の石部
 以下段りて。支黨三千餘人と驅催し。永延二年夏四月伊賀國と起
 程。竊小都走の布り。地方とも定む。此首彼首立まのび。或は富
 家ふり入り。或は路ゆく人か切害。心のまふ奉勤。んは中又物怒
 くちりぬ。檢非違使の官人ホ保捕公搦捕んとせん。も彼未へ夜更ら
 曉不散下。樹に登り水に没し。近くありつるか。かゆり。遠く竊。彼武殿
 野ありとふ。逃水の逃る。恰利。いふもせん。申明亭。不賞。擄
 と掲中。保捕を捕来。者少。賞錢百貫文と賜ふ。と人
 受とら。定の。その人。不賞錢ととせ。保捕を。獄。繫
 おく。繩。釋。夜の中。不。地。逃。亡。の。事。

う。び。度。及。び。め。れ。保捕賞錢と奪ふ。と人。不。支黨
 命。術。と。以。禁。獄。を。脱。出。る。め。り。と。公。づ。れ。遂。に
 その古も止。都下の忽劇。静る。もえ。と。只。此。う。源氏
 の武功。この兇賊を除く。れ。朝議。入。頼光
 朝臣。保捕追討の宣下あま。頼光。四天王を召つ。勅定の。返
 聞。宣。保捕。今。一城。不。看。籠。押。寄。討。彼。任。家
 とも定。没。常。ら。れ。只。の。び。中。不。探。索。ら。れ。頼光が
 追討の宣旨。風声。遠く。逃。去。輒。捕。か。ん。夫。謀。ら
 密。を。貴。の。四天王一人。中。不。洛。中。不。索。巡。その。果。公
 見。足。の。後。不。意。不。押。せ。搦。捕。と。宣。の。中。の。謹。命。を
 稟。今夜の綱。次の夜。公時。次。身。と。定。め。毎。夜。潜。不。巡。行。ち。話。分。兩。頭

のめころろ 嵯峨の龜山の麓に慈心寺といふ尼寺あり。住持の女僧画佛
 尼は道高權智れ聞えあり。年齢已ふ六十ふらむらぬ。あつねふあひの
 蘭若の本尊あり。千き觀世音。夕忽然とうせむひくらね。同宿の比丘尼
 くらふふ驚愕。何人の偷とると疑ひまじむ。わづらふその往方を
 尋索するころろふ。二三日のち彼觀世音。うづらふひく。本堂ふかり
 くらべこの不思議あるとる。まじく怪し騒がふ。この風声浴中ふら
 くて。慈心寺の本尊の活菩薩あり。夜まじく出らるるまとのひ傳へ
 語り傳へ。悉詣の貴賤途とる。蟻のむく群と集あふ。終日門前ふ
 市瓜ふらふ。思議がらふ。扱るところに塞錢。まじく大士に御手。
 觸る時。うづらふの錢を取ら放らる。かき奇特を見くらふ。らひ
 信とまじらん。老幼男女隨喜の涙おしむむ。毎日小香錢と山のむく

積上れば世界の財宝この蘭若小集ありと見え。夥し時ふ六月
 十八日の夜。袴垂保捕ハ三十餘人の支黨を將。慈心寺ふ乱ま入。こ
 まじ同宿の比丘尼五人を。轉くと縛。は小猿籠とふりのを掛。ちと狐
 庫裏の柱に繋ぎた。保捕ハ會釋もあ。住持の便空の袿隔を。
 さと押む。こら。裡を見れば。画佛尼ハいまど寢もや。むらり燈の
 下ふ経を讀。かり。まじ。保捕を見くら。自若ら。て経
 夫おさめ。は是深上の君子。や。呼り。漫ふ。へ。未
 め。その形容儼然。威高け。鳥雄敵。保捕も。
 忽ら。臆。得。この女僧何程の直入とる。んと
 思ひ。し。び。裡ふ入。その傍ふむ。と。是。袴垂保捕
 かり。この寺ふ。近曾居多の金錢を領。た。れ。り。て。行ん

集法異錄

卷之九

十一

為小来まりりといふ。画佛尼のれ瓜聞く。しりく騒と氣色もどる。尼ハ
 人小物開りしり覚あり。まづその故をうられしゆ。保捕呵とせ
 る。と笑ひ。汝何ぞ物領めらふ。この寺の本尊なる中せ。洛中の
 金錢を一時小集する。い。是はつがやせ。夏こ。まづその縁故を説くを
 へ。曩小。と。本尊を偷出。観音の手が磁石わ。造りうえ。あさび
 この寺小。り。未とゆえ。愚民忽ち信を。施物財宝未と
 集まれ。えん。この寺れ金錢。この。物が。ゆ
 小誰。外。あ。画佛尼あ。笑ひ。夫貨ハ世界の貨
 あり。一人の貸ふ。汝計と。衆生を欺く。衆生ハ只佛
 の尊と。汝が計。一念。正覚。香錢と佛小
 獻。汝が計も却。善巧方便。の故小馬祖大梅

和尚小説。即心即佛。非仏と示。の。の
 寺小あり。財宝ハ即心即佛の布施物。尼。の。尼ハ
 物。の。財宝を。汝。理。汝。夜明。人小
 捕られ。その言舌。水の流。保捕ら
 口。用。且。沈吟。何思ひ。つと。立。の
 走り去。支黨の衆。怪。の後。外。の
 ぬ。の。太郎。保捕。袖を。日。数百人。大夏
 高樓。潜。入。也。後。氣色。小。老。女僧只
 一人を。一物。偷得。斯。逃去。同。保捕。声。低
 くれ三十年。賊。を。この寺小。入。程。思ひ
 とい。彼女僧ハ。人。不。勅。小。草。と。并。蛇。小。驚。ん。ん。



袴聖保輔
夜劫
慈心寺
圖

思ひく。中走りやうりと谷止む。衆賊これと聞くと俄頃小毛髪の
 誰追ひのいかうれども皆足らずやと逃亡する。かくく画佛尼の保捕
 後同宿の比丘尼五人の縛を釋し扶起しこの中近曾高居
 ありけれ。圓國の女僧説石尼といふの彼稜邊を脱去し新とかがし
 声ふりやう哭れり。画佛尼怪しうその故は問は説石尼中旧とらあ
 強盜袴垂と申んが兒の彌次なり。彼いひ。女兒深雪とくりか
 那頃沢川不沈めと申ひ。今存生あるは見え深雪を殺し逃去
 強盜とんからうる。この身は悪業のふれ也とらうる。流石
 昔ちのぐれ。同くかうとつらんと。ひも若くすと。流石画佛
 尼聞くとあし。世ふの面のく肯する人もあると。彼袴垂と申ひが
 見くと宣へと。まうく人くうら。その疑ひを解ん乃画佛昔物をとり

もく。侍をへ。尼へえ權守與世が妻あり節折といひり。のるら。與世
 誅伏の時懐胎する兒。今の保捕とるふとの頃故ありて。藤原
 致忠の情を得。彼館ふくその兒を産か。これ致忠これとわが
 兒と。膳丸と名のり。その恩愛前夫中勝ると。身は安穩を謀るん
 欺死進。ととと深と悔。三年の後。とめく。與世が妻
 一夏を明。子の暇を賜。膳丸を将。上毛國小赴く道中
 岐岨の棧。導死。正通といふ人を喪ひ。加之その夜宿。家
 の主人。教さん。とらう。導魔法師の幻術より。脱
 安計呂山。来り。時加茂保憲の後室。妙藏尼の恩惠と稟。因果の理を曉得。遂に愛着の念を断絶
 見膳丸と。浪坂の酒肆。小捐。墨の衣。容瓜。更妙藏尼の

父子とありて、佛小傳の外他、夏ありて、七年に経く妙藏尼遷化
 ありて、ひつるべし、それより諸國の行脚して、多の年を積む。書馬山の性空
 上人の法を問うが為、一時浪速の浦より便船して、播磨の越前折しむ。
 ゆりたりとて、彼保捕が女子と拐掣し来り、不會ぬ元来、子を見を損するハ
 僅二歳の時、あくと相親を認む。その人昔、小黒藏ありしとせむ。
 うろろか着る、熟視を、臈丸が稚魚、残りしは、なりと。その者こそ保捕
 るめと稱し、即一言の道理を説く、その女子を救ひとり、又保捕を
 臈丸有りといふ、め、夏ハ、年来人のいふ、瓜田小藤原保昌、異父兄弟、
 保捕といふ、れあり、年紀十七八のころより、兄保昌の館、来り、左京亮
 とも、一む冠あり、それど、志あり、遂に盜人の大將軍となり、綽号
 と袴垂と、味るとあり、彼保昌の致忠の二男あるべし、その異父の兄弟といふ

とりて、己小保捕の臈丸、ありて、をあらぬ、ひく、妙藏尼、彼を相て、熊虎の形、射
 狼の声あり、今教む、ハ、一族の仇、せん、と示し、む、ひ、夏、む、ひ、舎、れ、く、いと、尊し、
 あり、よ、保捕の母と、あり、む、て、あり、よ、来り、るとい、ども、是天魔尼、が道心と、窺ふ
 とも、思ひ、ゆ、急、忽ち、論破し、退き、たり、且、尼ハ、久く、妙藏尼に、徒入り、
 陰陽の道と、學び、魔を、解く、をも、習ひ、得、られ、彼も、と、希、く、その、氣、を、察し、
 手を、空しく、逃去、する。から、證據、ある、保捕を、も、愛と、宣ふ、つと、大なる、
 謠言、れとい、説、石、尼、い、く、泣、つ、れ、る、の、夏、よ、つ、れ、く、あ、る、手、で、物、を、う、りの、侍、り、し、
 昔、尼、公、の、子、公、捨、り、ひ、く、夫、の、家、り、と、め、那、女、川、小、あり、時、尼、公、
 母、公、止、進、し、せ、り、ち、又、に、大、き、り、と、語、り、ぬ、拾、ひ、子、と、弥、介、と、名、つ、け、り、
 十六、年、養、育、せ、り、夏、夫、六、部、一、が、夏、女、兒、深、雪、の、事、が、元、の、名、と、榎、本、と、い、ひ、
 夏、ま、く、詳、小、説、訖、り、と、い、く、む、す、を、か、た、了、罪、障、と、懸、く、菩、提、の、因、と、い、く、忽、ち

警切^{けいせつ}のひ。野^のの旅^{たび}に死^しするん。この二十餘年^{じゅうねん}。あつある天場^{てんじやう}を巡^{めぐ}拜^{はい}す。
 今^{いま}茲^{こゝ}この月^{つき}ゆくりあく。この蘭若^{らんじやく}に寄^よ宿^{しゆく}して。契^{ちぎ}ある人^{ひと}の名^な告^つあひぬ。品^{しん}落^{らく}
 さす。この調^{てう}のうららも外^とに降^ふぬ。急^{いそ}雨^{あめ}ふ。袂^{たもと}も絞^{しぼ}る。とく。これとせらる。
 四人^{にん}の比^ひ丘^{きよ}尼^にも共^{とも}に法^{ほふ}衣^いの袖^{そで}とぬ。ぬ。画^ゑ佛^{ぶつ}尼^にへの物語^{ものがたり}を聞^きとい。ども
 驚^{おどろ}る。け。き。も。る。く。の。れ。妙^{めう}藏^{ざう}尼^に乃^の教^{きやう}の悖^{へい}是^{ぜい}臆^{おそ}丸^{まる}を教^{きやう}じて。終^{つひ}は禍^{わざはひ}
 法^{ほふ}衣^いをうせ。夏^{なつ}着^ぎふ。る。ほ。の。まり。り。是^{これ}皆^{みな}過^{あや}世^せの因^{いん}果^{くわ}なり。とい。ども。法^{ほふ}
 衣^いの十六年^{じゅうろくねん}。も。思^{おも}ひ。を。養^{やし}食^{じき}せ。る。思^{おも}ひ。を。ば。く。る。く。これと。酬^{じゆ}べ。尼^に今夜^{こんや}保^た補^ほ
 相^{さう}と。ふ。已^ま不^ふ死^し相^{さう}と。い。う。り。見^みる。彼^かの音^ねを。知^しら。ま。ん。夏^{なつ}着^ぎふ。も。保^た補^ほ
 保^た補^ほ謀^{ぼう}戮^{りやく}殺^{ころ}せ。ん。あ。三^{さん}縁^{えん}て。不^ふ解^げ脱^{だつ}し。夙^{しやく}願^{がん}成^{じやう}就^{じゆ}し。思^{おも}ひ。か。ん。こ。と。う
 こ。と。待^{まち}し。こ。の。実^{じつ}堅^{けん}真^まの。道^{だう}心^{しん}と。衆^{しゆ}皆^{みな}深^{ふか}く感^{かん}激^{げき}し。お。び。く。首^{くび}を。冊^{さつ}記^きたり。

四天王剽盜異録卷之九畢

